

戦地からの帰りを待つ妻

中郡支部 坂本 ふじ子（妻）

戦没者 坂本 正二

戦没地 インドネシア

きょう帰ってくるか、きょうは帰ってくるだろう。行方不明のまま、戦死では心ははれません。

きょうよりは かえりみなくも 紀の国の 河原撫子 思いてぞゆく

この一首を残して 軍刀一本持って出てゆきました。戦後六十五年、よく我慢していると自分ながら思う。

子供も私も、おかげ様で病気もせず元気です。ごしているのは、主人の霊が守っていて下さるからですね。

しかし、淋しい、声をききたい、顔もみたい、夢にでてくればいいのにそれもかなわない。朝おきて一日の生活がはじまる。ちっとも変わらない、かわってほしい。

相川の土地から二宮へと、家を変えたので分からなくなっているのではとも思う。一日一日の

生活は、平穩無事ですが心は晴れない、帰ってきてあなたの声を聞くまでは・・・。

八十八日目にでていった時の子供は、今は六十五歳すっかり生活をしていますから、安心して帰ってきて下さい。

私も九十歳、あなたが帰ってくるまではがんばりますから、一日も早く帰ってきて下さい。祈ります。